

「総ぐるみ」新聞

NPO総ぐるみ福祉の会 事務所は日限山4-44・23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子(844-7477)、増澤喜一郎(842-9084)、笠原松次(845-6263)、菅沼永子(844-9193)、米川満寿子(841-9433)、菊地幸子(841-4862)にお問い合わせください。

近頃の「街の噂」『NPO総ぐるみ福祉の会』についてどう思うか？「よびかえ」も。

「私たちの老後は、だれに見てもらったらいいのでしょうか？」



「この質問に対する答えを見つけたことから、私たち『NPO総ぐるみ福祉の会』が生まれました。」

皆様、ご存じのように平成十二年から介護保険制度がスタート。この制度によれば、介護を必要になったとき、家族に頼らなくとも、私たちの老後を行政が見てくれるようになります。

しかし、実際はどうでしょうか。「子どもたちの厄介になりたくない」の一心で、お仕着せの介

護に甘んじていないでしょうか。

十人十色という言葉があるように介護の方法も十人十色で、それぞれ違うはず。介護とは「こつしなさい」と勧められるものではなく、自分から「こつしたい」と選ぶものではないでしょうか。

そのためには「遠い親戚」に頼るのではなく、この街に住む気心の知れた「近くの他人」、同士が集まって、ボランティアで助け合いながら、前向きな老後の生活を送るお手伝いしたい。そのためにできることを一緒に考え、具体的な活動をする。これが、私たち『NPO総ぐるみ福祉の会』の趣旨であり理念です。

では、『NPO総ぐるみ福祉の会』について、これからどんな活動をしていくの？

「総ぐるみ福祉の会」は、昨年七月に県からNPO(特定非営利活動法人)として認定され、また昨年十一月には、同じく県から介護保険事業所

として認可されました。

私たちの会は、NPO精神に基づいた有料ボランティア活動として、在宅で援助を必要とする高齢者の皆様はもちろん、将来、手助けを必要とする地域の人々のために、「身体介護」や「家事援助」などの介護サービスを提供いたします。駆けぬうようになってから介護に頼っても手遅れ。元気なうちにこそ、自分の将来の介護を設計しておきたい。そう、お考えなら、ぜひ私たちにお任せください。統計によれば、われわれ日本人が在宅で亡くなる率は僅かに二十%。それに対し欧米では六十%の人が「終の棲家」で大往生を遂げています。

私たちが目指すものは、まさにそのための老後の生き方。皆様の知恵とお力をお借りして、自宅で一生涯を終えるための医療と介護、そして楽しい老後の生活を送るためのお手伝いをしていきます。介護サービス以外の今後の活動については、これから本紙でお知らせしていきます。

ポルトガル語とスペイン語に堪能な方、いらっしゃいませんか。在日のブラジル移住3世、4世に対する緊急電話支援のお手伝いできる方を探しています。増澤(842-9084)までご一報ください。